



第2回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ散珠つなぎ

日高支部

田辺支部

串本支部

新宮支部

## 「橋を巡る旅」



新築地橋

海草支部からバトンを受けて、和歌山市支部からは観光案内にはない和歌山市の魅力をご案内致します。題して「橋を巡る旅」。和歌山大空襲によって伝統あるまち和歌山は焼失した。戦後の復興の中、昭和33年の和歌山城が再建されさらに50年が経過し、町の姿はビルが建ち変化が激しいが、河川や堀川、橋梁としての構築物そのものは建替えられているものが多いが昔ながらの場所にある。

和歌山市は和歌山城を中心とした都市が形成される中で、要害としての役割をもつ堀川が建設された。紀ノ川から水を取水してまっすぐ中心の“ぶらくり丁”方面に至る真田堀川が初代藩主頼宣によって造られ、川幅は5~8



雑賀橋

メートルの狭いもので中心部に至ると両側から建物が川に張出している。最初の橋は「シティー(旧長崎屋)」前の教仙橋。真田堀川に元和年間佐武慶誓自ら出資によって最初の橋が架けられた。さらに南に下ると甫斎橋(ほさいばし)がある。元



丸橋楼跡

和年間、山本寛太夫甫斎なる人がこの橋をかけたという。甫斎橋を東に進むと鈴丸橋がある。大門川が鈴丸川と呼ばれていた時代に架かり、その向こうにある伊勢橋は伊勢の高見の山が見えるから名づけられたという。

真田堀川を南に進むとつきじ横丁があり鉄筋コンクリート造の新築地橋がある。西に向かって和歌山を守ってくれている海

の神様住吉神社を過ぎるとすぐ雑賀橋である。ぶらくり丁の中心地の橋は新しくなったが、国際劇場や帝国座、築映が営業をやめ映画の火が消えた。うなぎの



京橋

釣堀屋が両側に並んでいた浜通り、その突き当たりに九橋楼があった。つまりここから九つの橋が見えたのである。

堀詰橋を越えると住吉橋は明治13年架けられた橋である。当時は住吉神社が本町小学校付近にあり通りの前方に神社があった。京橋はかつて御門があり街道の基点であり、和歌山を代表する橋であった。中橋は東海道線京都の桂川に架かっ



中橋

ていた鉄道橋である。明治の時代に徳島県勝浦川に架かり、空襲で焼失した中橋に変わり、戦後現在の位置に徳島から移設された橋である。現代で3回

目のお勤めをしていることになる。今でも鉄道橋の姿であることが素晴らしい。城北橋を越えると、寄合橋。和歌山市内に戦前から残る橋で最もきれいなフォルムをしているのがこの橋である。昭和16年に竣工し現在に至る。この一帯は昌平河岸と称し天保時代より明治初年まで和歌山の文化の中心でもあり13年3月豊臣秀吉が紀州根来寺を焼き討ち後同寺内の焼け残った大伝法院堂の材を京都に運ばれたが一時ここに置いたので「伝法」の名称が起こったものである。

真田堀川から市堀川の旅であった。

和歌山市の中心にあるわずかなエリアでもこれほど多くの橋があります。それぞれの橋を巡りながらその場所の環境と歴史を考えると今までにない和歌山が見えてくるのではないのでしょうか。



寄合橋

和歌山市支部 中西重裕